

## 「人」の取材を通じて・・・ 飯塚 秀子さん・敏恭さんご夫妻(バラを育てておられます。)

出雲ブランド化推進市民委員会 「大好き 出雲！倶楽部」 人・地域グループ



### 〔インタビュー会場〕

自宅（バラ園）を訪問しました。

（平成24年6月5日（火）10時～）

### 〔取材相手〕

**秀子さん** 生まれ干支は、「寅年」

（「大好き 出雲！倶楽部」副委員長と同じ。

思いついたら一気に...。）

**敏恭さん** 「卯年」（長岡市長と同じ）

### 〔出雲にはいつから〕

秀子さんは、お父さんの転勤により、県内を転々としておられ、松江が一番長かったとのこと。結婚を機に出雲へ。斐川町三分市にお住まいです。

### 〔まずは、薔薇園を見学〕

「バラの病気」。バラは人を夢中にさせる花。自分の花を育てたくなる「病気」と言ってもいい魅力を持っています。

#### イギリスとフランスとで違うバラ。

イギリスのバラは、「すっきり」とか「気高さ」を感じさせるのに対し、フランスは姿も香りも豊満、ボリュームがあって華やかなものが愛されてきました。香りも、花の色と同じように、濃さ、趣が違います。

バラは育つ地域で姿を変え、イングリッシュローズは、日本の土壌では、長く、枝振りも大きくなります。

#### 花も「過保護」では咲きません。

水やりにしても、根は自分で水を探しに行きます。余り簡単に水を得てしまうと根がしっかり張らず、花も育たないのです。

#### バラの子ども。自然なバラ園。

このバラ園で生れた子バラが、母バラと小道を挟んで見頃に咲いていました。

多種のバラの自然交配で、できる種はいろいろな花となる可能性があります。途中の枝から花の色、形が変わる「枝変わり」も見られました。ハチが忙しそうに飛び回っていました。



ちょっと遠くを見ると、刈り取ったばかりの小麦畑、築地松や神社の木々といった「斐川」の情景が背景となり、「出雲」バラ園とでも言うべき景色がありました。

私たちがバラを見ている間も、道路脇のバラ園を次々お客さんが見学しておられました。

### 〔バラ園の歴史〕

バラ園は奥さんが主で、だんなさんは、奥さんいわく「農場管理者」。時に「Mr ローズ」とおだてられながら、一人では決してできないバラ園を育てておられます。

(参加市民委員のだんなさんも、好きな花に女性の名前をつけたり、誘引のおもしろさを知り、勝手にワイヤーを買ってきたり、だんだん本気になられたとのこと。)

33年前	最初は、バラ苗を種苗店で購入し、畑の片隅にそと3本植えたのが始まり。当時、だんなさんは、「今に嫌になるほどバラを植えさせてあげる。」と言われたとのこと。(だんなさんはその言葉の記憶はないそうですが。)
在職中	勤めている間は、バラは「癒し」。カタログや、苗を見に行き、どんどんバラ園(西側道路沿い)が充実して行きました。道路に面したオープンガーデンが口コミで広まり、来訪者が増えていきました。
忙しさでバラを諦めかけた時	忙しいとバラは育てられません。やめようかと思うと、そういう時に限って不思議に新しい苗が気になり、買ってしまい、続いてきました。また、近所の方の声、牛フン、糞の提供などの、決してお節介ではない協力が大きな後押しになりました。一時期は、バラを投げっ放しにして、園が草だらけの時もありましたよ。
13年前	お世話になった地域の方への「感謝デー」のつもりで、バラ鑑賞会を始めました。奥の庭を開放する鑑賞会は、見頃の年4日間に限定。今年13回目を迎えました。感謝デーからさらに拡がりを見せ、今は多くバラファンの方との年に一度の交流の場となっています。
5年前	夫婦とも退職後、東側のバラ園も本格的に手入れを始める。奥のバラ園まで開放していた時は、さすがに家の中まで見えてしまう状態で、ストレスを感じることもあり、バラ園を続けるか悩んだことも。見に来られる方を断るのを心苦しく感じた時期も。
約3年前 (平成21年7月)	「出雲ロザリアンクラブ」を設立、同代表に。 この頃、前庭の園にアーチを立て、立体的な庭にステップアップ。 【出雲ロザリアンクラブ】 出雲圏域(松江、安来、雲南、大田も含む。)のバラの愛好家で作った趣味の会。現在、会員51人。これくらいが活動できるマックスと考えている。日本バラ会につながる本格的な米子バラ会と比べ、出雲のクラブは趣味のバラ好きの集まり、情報交換会。 名前はやっぱり「出雲」。ブランドから響きが全国に広まっている。 昔からあるところは、「バラ会」だが、洒落た「ロザリアンクラブ」と命名。 〔活動〕 メインは、テーマを決めての栽培技術講習(2カ月に1回程度定期的に)。一方的な講習ではなく、講義の後にメンバーが持論を発表するような会。

	<p>自由さがいい。農薬との付き合いも人それぞれ。利用法の講習もあれば、無農薬の話も聴く。お互いを尊重し、楽しくゆるやかにやっています。</p> <p>グループ活動・発表会（クラフト、リース、パンづくりなどなど、資格や特技を活かし、それぞれがリーダーをしている。</p> <p>だんなさんは、写真グループを担当され、写真講師を招いて技術勉強します。</p> <p>本当は「花」が主役の発表会をしたいが、花は一時期のものなので、いろいろ作品を組み合わせで発表会としています。</p> <p>全国のバラ園を視察したり、会員の園を見たりする交流をしている。ほんとにわきあいあいと自由な会。</p> <p>お話会や、しまね花の郷での総会も開催します。</p>
現在	<p>バラ園は、家の東側約200㎡、西側約500㎡に、500株400種類のバラが植わるまでになった。バラが好きというのが一番で、特に13回を数えることになった観賞会を楽しみにしているとの周囲からの声が励みに。</p> <p>今でも、有機質の肥料のみを使い、無農薬で栽培しています。</p>

### 〔バラを食べる〕

無農薬栽培なので、花びらを使ったバラジャムなどを楽しむこともできます。

（種類ごとに香りが異なり、試食させていただき、味も絶品でした。）

元々は、花を食べること自体、そんな邪道と思っていましたが、試してみると、昨年のことを覚えていた年長組の園児が、「今年は？」と期待させており驚きでした。「香り」を食すといった方がいいかも。販売目的ではありませんが、食べてもらうものとして、県の基準による成分表示をしています。

### 〔バラ、バラ、バラ〕

周りから「きれい」と言われるのが励みになり、バラに魅力があるから止められない。

バラの香りは人を元気に、脳を活性化させるとも、うつ病に効くとも言われています。自分でも、元気になる香りと感じており、癒しから元気に繋がるのではないかと思います。現に、冬の時期より今の方が私は元気。香りは、朝強く、日差しとともに弱まります。施設からもよく見に来ていただきます。

以前は「どうしたら綺麗に咲くか」を目指していたが、最近は「どこまでしてあげれば大丈夫か」を考えるようになり、無理のない範囲で、あくまでも趣味なので楽しくするのが一番と思っています。





### 〔ちょっと栽培講座〕

バラ栽培は、冬が一番忙しい。一に剪定、二に施肥。

肥料は、1株に1kg必要で、自家配合のため、作業をする車庫に積まれる肥料は、一時500kgに。

肥やしは、花、葉、根それぞれへのバランスが大事。

油カス、骨粉、リン酸肥料、燐炭、蟹ガラ(くさい)を独自に配合。また、ヌカを入れて土ごと発酵させ善玉菌の力を借ります。深い穴を掘って施肥していた時期もありましたが、酸素が大事との結論で、表層10cmまでを使う今の方法に。発酵後は匂いがしなくなる。

ヌカ発酵は、流行りのEM菌の考えに似て、いわゆるボカシ肥料はいい。化学肥料は、効果的な反面、反動が怖い。

さらにこの時、根を傷つけることで、春には、傷ついたところからいい根が発根する。冬で休眠中なので切っても大丈夫。鉢の植え替えも、12月にバケツにドボンと浸けて、病気の根も大胆に切ってやるのが自分流。鉢に戻す時、炭を入れると下から害虫が付けるのを防ぐことができます。



### 〔娘さんの名前の花〕



このバラ園で生れた新種の花に娘さんの名前をつけておられました。娘さんは、以前は照れておられたようですが、最近、自分の花のことをうれしく思っておられたことが分かったとのこと。

近隣の新品種で有名なのは、「さ姫」。  
香りが強く、色濃いバラで知られています。

### 〔出雲のここが好き〕

とても気遣いしてくださって優しい、あたたかい方が多いこと。決してお節介ではない接し方。そう言われれば、少し遠慮がちでシャイな方が多いですね。

### 〔出雲のっておきの場所〕

美人の湯「湯の川温泉」の「いりすの丘温泉」が好きでよく行きます。

かけ流しの泉質も元気してくれますが、受付の方の出雲弁の温かい声かけが、すごく心地よく、ゆったり、気持ちまで温かく一日が終わる。

バラのイメージで、スマートな場所を期待されていませんか？

(健康のため、) 病院より温泉でお金を使う。皆さんもどうぞ。

### 〔好きなことば〕

「天に星 地に花 人には愛の恵みあり」

(素敵です・・・)

